

ひびき

山梨県立甲府支援学校

TEL 055-226-3322

URL <http://www.yogoy.kai.ed.jp/>

今回の「ひびき」では、今年度前半のセンター的機能の利用の状況等についてご報告いたします。ご参照いただき、今後のセンター的機能の利用に生かしていただければ幸いです。

令和2年度前期センター的機能実績報告

○教育相談 来校相談(見学を含む) 10件 電話相談 1件 体験入学 9件

主に令和3年度の就学に関する来校相談と体験入学の実施でした。オープンスクール中止に伴い、個別に学校見学・教育相談を実施したため、例年よりも件数が増えています。

電話相談については、以前訪問支援を行った生徒の体育科の指導における配慮事項等について、今年度着任した体育科教員に伝達してほしい、との学校からの依頼があり、PTが対応しました。

体験入学の申し込みについては、8月末に一度締め切りましたが、追加での対応は可能です。お気軽にお問い合わせください。

○研究支援 コーディネーター対応1件

児童発達支援センター主催の食事に関する保護者向け学習会の講師をしました。コーディネーターからの情報提供だけでなく、保護者同士の情報共有を進めることで、好き嫌いのことや手の使い方のことなど、学びあうことができました。

○訪問支援 就学前施設 11件 小学校 2件

就学前施設については、食事に関する相談が中心でした。1日に1～3名の方の観察後に保護者の方や施設職員との懇談をする形で支援を行っています。

小学校については、階段昇降の介助・見守り方法の検討や運動会への参加についてPTが中心となって助言しました。別ケースでは、コーディネーターがケース会議に参加し、授業見学・情報提供することもありました。

その他、他の特別支援学校にPT・OTの派遣も行いました。

なお、昨年度まで開催していた特別支援学級連絡会に代えて、今年度から肢体不自由専門部連携会議を実施します。県内の市町村の福祉課や肢体不自由特別支援学級のある小中学校にご参加いただき、一部オンラインでの参加も可能としました。今年度は10月19日に開催します。

こんなときどうする？～本校での相談の一例から～

【学校・保護者からの相談例】

Q 障害がある子どもの進路ってどう考えるの？



A 特別支援学級に在籍していても、高校進学は可能です。実際に令和2年3月卒業の中学校特別支援学級在籍者の約6割が高等学校に進学しています。その一方で、必要な合理的配慮について進学先の学校と合意形成することが求められます。

また、就労について、企業には従業員数の2.2%障害者を雇用する義務があります。障害者手帳等を取得することで、この障害者雇用枠での就労が可能になります。さらに、就労継続するための公的な支援制度を利用することもできます。

これらの制度についても、本校への電話相談や訪問支援の中で情報提供することが可能です。ぜひお気軽にお問い合わせください。

【食事に関する相談の一例】

Q 手づかみ食べが多いので、食具を使って食べてほしいです。



A 手づかみ食べをすることで、手の使い方や触覚を育てることができます。手づかみ食べをとおして、手の機能が育ち、食具等を使いやすくなる一面もあります。

食具を使う練習に関しては、まずは1回の食事で1回～数回使うことから目標にするとよいと思います。また、食べ物をフォークに刺して皿に置いておき、それを口に運ぶように促すのも効果的です。

さらに、周りのお子さんや先生が食具を使って美味しそうに食べている様子を見ることで、食具を使ってみようという気持ちを育てられるとよいですね。

甲府支援学校

地域支援係

保坂美智子・稲垣友香

Tel : 055-226-3322

E-mail : chiikishien@yogoy.kai.ed.jp